

最新旧型機クロックアップ・サイリックス

Ver 14

# 表裏一体

作・演出／川原 武浩

## CAST

マツダ／ ぼち（非・売れ線系ビーナス）  
タマダ／ 長岡暢陵  
カドタ／ 上瀧昭吾

## STAFF

照明 出田浩志  
音響 青井美貴  
舞台監督 兄弟船  
道具 中島信和  
宣伝美術 岩瀬幹基  
制作 石橋整

闇の中、携帯電話の目覚ましの音。

薄明かりの中、うつすらと女（マツダ）の姿。

「5・46」と時刻が舞台に映写される。

（以降、マツダのセリフに合わせ、時刻は進んだり戻ったりする）

鳴り続ける目覚ましの音に、寝ぼけ眼で携帯の時計をじっと見る。

マツダ、携帯のアラームを止めて：

マツダ

いつもより1分遅く目が覚めた。だからもう会社を休むしかない。

いつもなら毎朝5時45分ちようどの目覚ましをワンコールで速攻止めて、布団を飛び出しシャワーを浴びて、のっぺらぼうから化けて化けて人前に出られる状態になるまでちようど一時間。バス停まで10分。いつもピツタリにやってくるバスで駅まで15分。駅前のバス停から改札を抜けてホームにつくまで概ね4分。7時18分の電車に乗り換え32分。ホームから改札を抜けて会社まで徒歩9分。7時59分に会社に着く。始業は8時30分。一番乗りで会社に着く。社会人としてパーフェクトな感じだ。

1分遅れて、布団を飛び出しシャワーを浴びて、のっぺらぼうから化けて化けて人前に出られる状態になるまでちようど一時間。バス停まで10分。次のバスを待つなら20分。駅まで走って35分。どっちにしても35分。駅前のバス停から改札を抜けてホームにつくまで概ね4分。次の電車は7時50分。電車に揺られて32分。ホームから改札を抜けて会社まで徒歩9分。8時31分に会社に着く。始業は8時30分。つまり1分の遅刻だ。いつもより、たった1分遅く目が覚めただけに、一番乗りが一番ビリになるこの不思議と不条理。いつもより1分遅く目が覚めた。…だからもう会社を休むしかない。

まだ金曜日の朝、5時46分。とりあえず…寝る。

音楽！

どんでん返しがくるくると回る。

時間が5・46から、1分ずつ映写されていく。

13・00。

昼下がりの縁台。

そこには賭け将棋をする老人(タマダ)と若者(カドタ)の姿。汚い筆書きで「一局千円から。勝ったら十倍」の文字。

早回しで対局が進む。

一回の待ったを挟んでカドタ、投了。

13・25

再度早回しで対局が進む。

二回の待ったを挟んでカドタ、またしても投了。

13・55

再度早回しで対局が進む。

カドタ、パチリと駒を打つ。

(駒を打って) 王手。

え？

オ・ウ・テ。

待った。

待ったは千円。

カドタ、無言で千円札を盤上に放り出す。

カドタ、盤上を一手前に戻す。

タマダ、千円を袂に収める。

カドタ、考え抜いて：

(打つ) これでどうだ。

それ打てないよ。

？

角筋が開いちゃうよ。ほら。

カドタ、無言で千円札を盤上に放り出す。

(打つ) じゃあこうでしょ。

ほほう。これはなかなか。(打つ)

じゃあこう。(打つ)

(打つ) でも王手。

うわ。マジで？ (打つ)

さらに王手。

(打つ) …。

(打って) はい詰んだ。

カドタ 待った。

タマダ 待ったは千円。

カドタ、無言で千円札を盤上に放り出す。  
二人、盤上を王手がかかる前に戻す。  
タマダ、千円を袂に収める。

カドタ こういくと、こうくる。だったら、こうか。(打つ)  
タマダ (打つ) じゃあこっちから王手。  
カドタ じゃあこう。(打つ)  
タマダ (打つ) でも王手。  
カドタ うわ。マジで？(打つ)  
タマダ さらに王手。  
カドタ (打つ)  
タマダ (打つ) はい詰んだ。  
カドタ 待った。  
タマダ 待ったは千円。

カドタ、無言で千円札を盤上に放り出す。  
二人、盤上を王手がかかる前に戻す。  
タマダ、それを袂に収めて：

カドタ こういくと、こうくる。ああいくと、こうくる。…だったら先手必勝 王手！(打つ)

タマダ (打つ) じゃあこう。  
カドタ (打つ) 王手！  
タマダ (打つ) ほいほい。  
カドタ (打つ) 王手！  
タマダ (打つ) なんのなんの。  
カドタ (打つ) 王手！  
タマダ (打つ) まだまだ  
カドタ (ムキになって打つ) 王手！  
タマダ (打つ) ほっほっほ。  
カドタ ……。  
タマダ どうしたね。  
カドタ (手詰まりで打つ) ……。  
タマダ (打つ) じゃあ王手。  
カドタ (無言で打つ)  
タマダ (打つ) 王手。  
カドタ (無言で打つ)  
タマダ 王手。  
カドタ (打つ)  
タマダ (打つ) 王手。  
カドタ ……。  
タマダ 負けました。  
カドタ 勝ちました。

間。

カドタ ああもう、くっそー！ また負けた。

タマダ 二度あることは三度ある。三度目も正直すぎる攻め手だねえ。若い若い。まだまだ修行が足りんようだねえ。

カドタ こうきたらこう、ああきたらこう。だからってこういけばこう受けられてこう。ああ、もうどう打てばよかったんだよ！

タマダ (袂から金を取り出して数える) ちゅうちゅうたこかいな。(もう一回数えて) ちゅうちゅうたこかいな。ただ今の対局、場代千円、待った4回で4千円。べて5千円也。

その前の二局分が2千円と3千円。ご破算で願ひましては2千円也、3千円也、5千円では。

カドタ …一万円。

タマダ ご明算！

カドタ くっそー！

タマダ 毎度どうもありがとうございます。略してまいどあり！

カドタ もう一局。

タマダ 懲りんねえ。

二人、盤上に駒を並べていく。

カドタ ああ！ そうか、あそこでこう打ってたらこうなって、そうすればもしかして。

タマダ タラはお魚。レバは生食禁止。残念だったねえ。

カドタ 読めた。

タマダ 読めたかね。

カドタ 見えた。

タマダ 見えるかね。

カドタ 爺さんが「参りました」って頭を下げるイメージが。

タマダ ほっほっほ。

カドタ そして爺さんから賭け金十倍ふんどくり、ちゅうちゅうたこかいなど数える俺の姿が。

タマダ ただの白昼夢かもしれんぞ。

カドタ 一発逆転。今度は2千円で。

タマダ ほしい、どうぞどうぞ。

カドタ 賭け金十倍。勝ったら2万円。

タマダ とらぬ狸の皮算用と。

タマダ、最後に「玉将」を置く。

タマダ (手を出して) それではまずは場代を。2千円で。

カドタ、二千円札を取り出し出してタマダに渡す。

タマダ、札を数えようとして

タマダ ちゅうちゅ：ん？ おおおお、びつくりした。いまどき二千円札 by 小淵恵三とは。驚いてショック死するかと思った。

カドタ そのまま死にやあよかったのに。

タマダ 使わんよなあ、二千円札。どうか使えんよなあ。当時、店で勘定の時に使うとあ

からさまにいやな顔されたもんなあ。よし父さん、西暦2000年だから二千円札

作っちゃうぞー！とか、そんなんでよくこの国は今まで無事にやってこれたもんだ。

カドタ バイト先で無理矢理押しつけられるんだよ。入金機に入らないからって。

タマダ ほう、バイト。

カドタ コンビニ。

タマダ ほうほう。

カドタ いらぬなら返せよ。

タマダ いますいます。小淵に罪はあってもお金に罪はない。いやあ本当に久しぶりに

見た。拝んどこう。どうぞ人類がこの過ちを二度と繰り返しませんように。

カドタ 何ボソボソ壮大なこと言ってるんだよ。

タマダ あと、娘の小淵優子が平成25年を記念して25円玉を作るとか言い出しませんよ  
うに。

カドタ 先手は？ 振り駒？

タマダ どうぞ。

カドタ いやいや、どうぞどうぞ。

タマダ お先にどうぞ。

カドタ 普通「玉将」の方が先に指すんじゃないの？

タマダ そうだねえ。

カドタ だからどうぞ。

タマダ いやいやいや。

カドタ なんか怪しいんだよな。

タマダ 何か？

カドタ さつきからずっと後手じゃない。

タマダ そうだねえ。

カドタ なんて。

タマダ ハンデ。

カドタ はあ？

タマダ ハンディキャップ。将棋は先手の方が有利だからねえ。文字通り、将棋は先手

カドタ 必勝！

タマダ っていうけどさ、実際どうなの。

カドタ 先手の勝率がちよつと高い。らしい。

タマダ らしいって、それ何情報。

カドタ ウイキペディア情報。

タマダ 怪しいよ。ウイキペディア情報。(お任せ) ビリーバンバンとばんばひろふみが

カドタ 遠い親戚とか書いてあるんだぞ。

タマダ ほお、それは知らなかった。

カドタ だから嘘なんだって。

タマダ それは残念。

カドタ …こっちが後手でもいいよね。

タマダ もちろん。

カドタ いいの？  
タマダ どうして。

カドタ いや、そんなにあっさり、いいのかな、と思つて。

タマダ 先手でも後手でも構わんよ。

カドタ そんなこといつて、本当は後手じゃないとこまるんだろ？

タマダ じゃあ喜んで先手で。

カドタ 心理戦？

タマダ 何を言つとるんだ？

カドタ (悩む) え、どっちなんだ。本当に先手有利なのか？ 俺、先手で三回続けて負けて

んだぞ。ウイキペディアとか信じていいのか？ 俺。ペディア的には先手かなり不利つて  
ていうか勝率0パーじゃん。

タマダ じゃあやつぱり振り駒にしとくかね？

カドタ (悩んでる) ううううううう。

カドタ、悩んだ末、歩を五枚集めて振ろうとしてやつぱりやめる。

カドタ、歩を置きなおして：

カドタ# (じゃんけん) 最初はグー！じゃんけんぽん！

タマダ# (じゃんけん) じゃんけんぽん！

カドタ# (じゃんけん) ぽん！ぽん！ぽん！ぽぽぽーん！

タマダ# (じゃんけん) ぽん！ぽん！ぽん！ぽぽぽーん！

タマダ、圧倒的勝利。

タマダ じゃあ後手で。

カドタ、結局先手になる。

カドタ ああ、もう、なんか釈然としねえよ。

「14…20」

時刻が一気に戻っていく。

「12…00」

どんでん返しがまわってマツダが現れる。

マツダ 笑つていいとも。今日のテレホンショッキングのゲストはは杉良太郎。来週の月曜  
にwindsを紹介した。そのチョイスがショッキングだ。どう考えても友達じゃ  
ない。

「13…00」

マツダ チャンネルはそのままごきげんように突入。今日のおやつは草餅。地味だ。ゲスト  
はU字工事、小沢真珠、ピース。草餅以上に地味なメンツにかなり見る気をなくす。



「13…20」

マツダ

どうして徹子の部屋は、こんな中途半端な時間に始まるのだろう。おかげでごきげんよの最後10分が見れない。トットちゃんは何か小堺一機に恨みでもあるのか。今日のゲストは高田純次。速攻でチャンネルをごきげんように戻す。戻してみたものの、やっぱり地味なメンツだ。仕方がないので、転がるサイコロをぼんやりとみていた。あのサイコロはどうしてなかなか止まらないのだろう。もしかすると時間稼ぎのためにわざと止まらないようにしているんじゃないだろうか。バファリンの半分はやさしさでできているというけれど、ごきげんよの半分はサイコロが転がる時間できている。

「13…30」

マツダ

なんだかんだで結局見るものがないので、チャンネルを戻して徹子と純次を見て過ごす。高田純次は徹子の部屋に出るのは二十三年ぶりだとか言っている。きつとテキトー発言だ。二十三とか、数字がいかにもテキトーな感じだ。と思ったら、過去の出演映像が出てきた。ごめん純次。二十三年前の純次は三十九歳。若い。徹子はあまり今と変わらないように見える。怖い。私の中で「徹子はユニセフが作ったロボットだ」説が益々深まる。深まりながらも、ごきげんよのライオンちゃんは、どうして鬘（たてがみ）としっぽの先が緑色なのか気になり始める。

間。

マツダ

鼻はどうだったっけ？ ライオンちゃんが全体的に黄色で、鬘としっぽの先が緑なのは間違いないとして、鼻は何色だっただろう。：はあ。暇だ。会社はさぼってみたけれど、何もすることがない。

「13…54」

徹子の部屋のテーマ（エンディング）が流れる。

「13…55」

マツダ

カーテンを開けると、外から差し込む日差しは暖かい。思い切って窓を開けると、やっぱりまだ三月頭じゃ肌寒い。全国的にいい天気だ。せつかなので、いつもの半分くらい化けて、外に出てみることにした。

「13…55」

どんでん返しが回り、カドタとタマダが姿をあらわす。

三局目の模様が、ピクチャーサーチのようにコマ飛びの早回しで再現される。

四回の待ったを挟んでカドタ投了。

「14…20」

四局目の模様が、ピクチャーサーチのようにコマ飛びの早回しで再現される。

（おまかせ…コマ送りで対戦）

結果、カドタ、またしても返り討ちに合う。

「14…20」

対局が終わった瞬間、また14…20に戻る。  
終わったばかりの対局がまたすぐに始まる。  
どんでん返しがる。

「14…21」

マツダ、化け終わる。  
どんでん返しがる。

「14…22」

タマダ、攻める。  
以降も一分進むごとにどんでん返しがり半回転くると回る。

「14…23」

マツダ、靴を履く。

「14…24」

カドタ、受ける。

「14…25」

マツダ、歩く。

「14…26」

タマダ、追い詰める。

「14…27」

マツダ、飲み物を買う。

「14…28」

カドタ、背水の陣。

「14…29」

マツダ、さらにトコトコ歩く。

「14…30」

タマダ、余裕で詰めに入る。

「14…31」

どんでん返しがりマツダのところまで止まるかと思いきや1周以上回る。  
マツダ、遠心力でどんでん返しの外に放りだされる。  
そのままもう半周回って、タマダとカドタが出てくる。  
あちらの14…31とこちらの14…31がシンクロする。  
マツダ、こちらの14…31の世界に現れる。

「14・31」

カドタ、投了寸前。

マツダ、きよろきよろとあたりを見回している。

カドタ ま…。  
タマダ ま？  
カドタ ま…。  
タマダ ま。

カドタ、「待った」か「参りました」の間で逡巡。

カドタ まいりました…まだまだあつ！

カドタ、あがきの一手。

タマダ おやおや。(打つ)  
カドタ 徹底抗戦！(打つ)  
タマダ そういうのを無駄なあがきというんだよ、と。(打つ)  
カドタ 総員突撃！(打つ)  
タマダ やれやれ。(打つ)  
カドタ 吹けよ神風！(打つ)  
タマダ 滅多に吹かないから神風。(打つ)  
カドタ 進め一億火の玉だ。(打つ)  
タマダ ちよつと熱くなりすぎだねえ。(打つ)  
カドタ 一億玉砕。  
タマダ 無駄死にだよ。  
カドタ 王手！ 王手！ 王手！（手持ちの駒をありったけ打つ）

タマダ、無言で無駄な足掻きをかわず。  
カドタ、ついに手持ちの駒がなくなつて…

カドタ (ブツブツ) 堪え難きを堪え忍び難きを忍び、以て万世の為に太平を開かんと…  
タマダ 熱い熱い。頭とか色々冷やして出直したほうがよからうて。  
カドタ ま、ま、ままい、…待った！

カドタ、まさかの待った。  
マツダ、その言葉に反応して…

マツダ はい！  
カドタ はい？  
タマダ ?  
マツダ 呼びました？

カドタ (タマダに) 孫かなんか？

タマダ いやいや？

カドタ ていうか、誰？

タマダ マッタです。あ、本名はマツダです。マツダが訛っていつしかマッタになりました。私をその名前で呼ぶことは、大(おお)小の同級生？

カドタ 違うよ。

マツダ あ、じゃあ荒(あら)中？

カドタ それも違う。

マツダ え？ じゃあいつの同級生？

カドタ 同級生じゃないし。そもそも呼んでないし。

マツダ マッタって言いましたよね。

カドタ 言ったけど呼んでない。

マツダ だってあんなに大声で。

カドタ 見りゃわかるだろ、将棋だよ将棋。

マツダ (あんまり分かってない) ああ、ええと？

カドタ 将棋知ってる？

マツダ 挟み将棋と将棋崩しなら。

カドタ そうじゃなくて、普通の将棋。

マツダ あんまり知らないです。

カドタ 将棋のルールにあるんだよ。待った。

タマダ ルールにはないけどね。

カドタ ちよつとピンチになつちやつた時とか間違えたときとかにやり直すのを「待った」

つていうの。

タマダ そもそもマナー違反。

カドタ わかった？

マツダ なんとなく。

タマダ すまんね、騒々しい上に紛らわしい男で。

マツダ あ、いえいえ。

カドタ 待・っ・た。

タマダ 待ったは2千円。

カドタ、タマダに2千円札を投げつける。

タマダ まーた小淵の亡霊か。南無阿弥陀仏南無阿弥陀仏。

カドタ いらぬなら…

タマダ いただきます。

タマダ、さっさと2千円札をしまう。

カドタとタマダ、かなり前まで手を戻す。

マツダ あの。

タマダ はいはい。

マツダ 見てもいいですか？

タマダ ギャラリー大歓迎。

カドタ やだよ。  
タマダ どうして。  
カドタ 気が散る。  
タマダ 散っても散らんでも大して変わらんだろうに。いいよいいよ、ゆっくり見てなさい。  
カドタ まあ、ゆっくりする暇もなく、すぐ終わるかもしれないが。  
タマダ 見てろよ。  
カドタ この辺からでいいかね。  
タマダ もうちよつと。

カドタ、さらに手を戻す。

カドタ こんなもんで。よし、じゃあ今度はこっちからこう（打つ）  
タマダ はいはい。じゃあこう。（打つ）  
マツダ あの。  
カドタ 何。  
マツダ 将棋って、どうやったら勝ちなんですか？  
カドタ そんなことも知らないで見んなよ！  
タマダ 怒らない怒らない。ほれ、なんなら待ったの2千円返そうか。  
カドタ いらねえよ。  
タマダ 将棋は、先に相手の王様を取った方が勝ち。  
マツダ へえ、そうなんですネ。

対局が続く。

マツダ あの、で、王様ってどれですか？  
カドタ 帰れよ、もう！  
タマダ これこれ。王将。  
マツダ ああ、王将。聞いたことあります。  
カドタ 餃子とか言うなよ。  
マツダ 村田英雄先生の。  
カドタ そっちか。  
タマダ 吹けば飛ぶような将棋の駒にく、と（打つ）王手。

マツダが「あの」と言うのを先読みして：

タマダ っていうのは、次に王様を取れますよって宣言のことね。  
マツダ （カドタに）っていうことはピンチなんですか？  
カドタ 別に。（打つ）  
タマダ ほう。（打つ）  
カドタ それでこう。（打つ）  
タマダ ほうほう（打つ）

カドタ、タマダの王手を受けきって反転攻勢。

マツダ あの、こつちに王将がないのはどうしてなんですか？  
タマダ ン？ これこれ。  
マツダ 玉(たま)将？  
カドタ 玉(ぎよく)将。  
マツダ 王(おう)じゃなくて玉(ぎよく)なんですか。片や人、片や物っておかしく  
カドタ そうだよ。  
マツダ なんて？ なんて片方が王様で片方が玉なんですか。片や人、片や物っておかしく  
カドタ ないですか。  
マツダ 考えたこともなかった。  
カドタ なんてですか？  
マツダ なんて？、それは…なんでだろう。  
カドタ お寿司屋さんで玉子焼きのことをギョクっていうのと同関係ありますか？  
マツダ 知らないよ、俺は寿司屋じゃない。  
カドタ 吉野家でも卵をギョクっていいませんか？  
マツダ 牛井屋でもないんだよ俺は。

と言いながら指していたら、いい感じに力が抜けていい局面になる。

カドタ お、なんかいい感じ。…よし、王手！  
マツダ 王将を取れますよって時は「王手」って言わなくていいんですか？  
カドタ 斬新だねえ。でも今忙しいから無視していいですか。王手！  
マツダ (カドタに)チャンス？  
カドタ いちいち五月蠅いよ。  
タマダ これはなかなか。  
カドタ 王手！ どうよ爺さん。  
タマダ 珍しくない手だねえ。  
マツダ あの。  
カドタ 何。  
マツダ ずっと気になってるんですけど。  
カドタ 何が。  
マツダ ライオンちゃんの。  
カドタ (盤面を見回して)ライオンちゃん？  
マツダ はい。ライオンちゃん。おはようからおやすみまでのライオンのキャラクター。  
タマダ ああ、あの黄色と緑の。  
マツダ はい。そのライオンちゃんの鼻って何色ですかね。  
カドタ それってなんか将棋に関係あるの。  
マツダ ないです。  
カドタ ないなら聞くなよこんなタイミングで。  
マツダ ないんですけど、さっきからずっと気になってて。  
カドタ 気になってるからって今聞くことかよ。  
マツダ ごめんなさい。でも知りません？  
カドタ ググれよ。  
タマダ ググる？  
カドタ なんだよ、爺さんまで。

タマダ　ググるってなんだね。  
カドタ　なんでウイキペディアは知ってるくせに、ググるはわかんねえんだよ。  
タマダ　そんなこと言われても、知らんもんは知らん。聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥。  
マツダ　教えてー  
タマダ　教えてー  
カドタ　なんだよここは、子供電話相談室か！

タマダ、どさくさに紛れて駒の位置をいくつか変えたりする。

マツダ　子供じゃないよ。  
タマダ　大人だよ。  
マツダ　ライオンちゃんのお鼻は何色ですか？  
カドタ　知らねえよ！  
タマダ　ググるってなんですか。美味しいですか？  
カドタ　美味しくない。っていうかググるは食い物じゃない。ググれっつのは、グーグルで  
検索しろって意味だよ。

マツダ　グーグル。  
タマダ　検索。  
マツダ　あーあーあー。  
タマダ　ほうほうほう。  
マツダ#　そのググるね。  
タマダ#　そのググるね。  
マツダ　私、ヤフー派なので。  
カドタ　ああそう。  
タマダ　わしや、百度（バイドゥ）派なので。  
カドタ　高度だよ。なんで中国の検索エンジン使ってるんだよ。  
マツダ　え、じゃあヤフーで検索することをヤフるって言うんですか？  
タマダ　じゃあバイドゥで検索するのをバイると言うのか？  
カドタ　なんでもいいから調べりゃいいだろ。  
マツダ　いまだきガラケーなんで使いにくくて。  
タマダ　高齢者用ケータイなので、メールと電話しかできん。  
カドタ　ああ、もう！

カドタ、スマホを取り出し：

カドタ　ごきげんよう、ライオンちゃん、画像。

カドタ、スマホを操作。

カドタ　黒。

カドタ、マツダとタマダに画面を見せる。  
ライオンちゃん、壁に映写される。

カドタ ライオンちゃんの鼻は黒。

マツダ おー！

タマダ ほー！

マツダ すつきりした！ ありがとうございます！

タマダ 案外思いつせんもんだなあ。

マツダ 肉球の部分は黄色なんですわね。

タマダ 案外思いつせんもんだなあ。

マツダ でもなんでそもそもライオンが黄色と緑なんでしょうね。

タマダ 世の中わからんことだらけだなあ。

カドタ さあ、打てよ。爺さんの番だぞ。

タマダ おお、そうだったそうだった。(打つ)

カドタ よし、王手…あれ？

タマダ どうしたね。

カドタ あれ？ ああ来て、こうして、あれ？ なんで？

タマダ ではこう。(打つ)

カドタ (自信なさげに) 王手。

タマダ ほいほい。

カドタ 王手。

タマダ ほい。

カドタ これで詰…まない。

タマダ 詰まないねえ。

カドタ え、なんで？

カドタ、手詰まり。

カドタ (打つ)

タマダ では、歩成で。

タマダ、歩を裏返してと金に成らせる。

マツダ あの、今のはなんですか？

カドタ、熟考中。

タマダ ああ、相手の陣地に入ると「成り」って言ってね、まあ簡単に言うとは偉くなるんだ

な。歩は金になれるんだよ。で、その歩が金になるのを指して、

タマダ# 成金。

マツダ# 成金。

マツダ 知ってます、成金。足元が暗いからお札を燃やして明るくする人ですよ。なるほどー。大出世ですね。

タマダ 歩だけじゃなくて、他の駒も成れるんだよ。香車も桂馬も銀も、金に成れる。成った駒が分かるように裏返すのさ。

マツダ てっきりやられて死んだら裏返すんだと思ってました。  
タマダ 斬新だねえ。



カドタ うるせえよ。考えらんねえだろ！

タマダ 人間、無音より何か音がしてた方が考えが深まるもんだよ。

マツダ あー、それなんかわかります。静かな図書館じゃなくて、わざとぎわざわしたマツクなんかで勉強したりとか。

タマダ 無音は自然界にない不自然な状態なので、脳が緊張しやすく記憶や思考に最適なシート波が発生しづらくなる…とウイキペディアに書いてあったぞ。

カドタ またウイキペディア情報かよ。

タマダ サザエさんの。

カドタ は？

タマダ サザエさんの作者の長谷川町子先生

カドタ それがどうしたんだよ！

タマダ 長谷川町子先生はだな、アイデアが浮かばないときは裁縫箱の整理をすると、不思議と色々思いついたらしい…とこれもウイキペディアに書いてあったぞ。

カドタ もういいよ、ウイキペディア情報で腹いっぱいだ。

タマダ よくあるだろう、人の名前が思い出せなくて。

マツダ ほら、あの、(おまかせ)東北の人で、子供の頃はさぼてんみたいな名前だった、目が悪い、あー、なんだっけ、ここまで出てるのに。

タマダ って考えてる間は絶対に思い出せないのに

マツダ 思い出すのあきらめた！ よし、気分転換に自販機でジュースでも買って飲むか！

チャリーンジャラジャラジャラ、あー！小銭ばら撒いちゃった。(小銭を拾いながら)

あ、わかった、伊達政宗だ。

タマダ# あるある。

マツダ# あるある。

タマダ (おまかせ) ほら、なんだっけ、ロシアの、モヒカンで、赤いパンツの。…んー出て

こん。よし、気分転換に革命でも起こそう。ウォッカ飲んで、石投げて、火をつけて

…思い出した、ザンギエフだ。

マツダ v s ダルシム。

タマダ# あるある。

マツダ# あるある。

カドタ 出ねえよ、こんな環境でシート波なんて。いくらなんでも雑音ひど過ぎだろ、

タマダ 要するにな、考えるから、わからなくなるんだよ。考えなければ、わからなくならない。

マツダ 深い！ あ、じゃあ何か考えたり思い出したりしたときは、逆に全然関係ないことをしたり考えたりしたほうがいいんですね。

タマダ そうそう。

カドタ おかしいおかしい、絶対におかしい。さっき読んだときには確かに詰められそうな

流れだったのに。

タマダ そうだったかねえ。

カドタ あれ？

タマダ どうしたね。

カドタ あーあーあー！

カドタ、何かに気付いて…

カドタ 角、ここじゃなかったよな。  
タマダ そこじゃったよ。  
カドタ 動かしたろ。  
タマダ いや？  
カドタ 俺の記憶じゃこつちだったんだけど。  
タマダ ワシの記憶じゃこつちで間違いない。  
カドタ いいや、こつちだ。  
タマダ ここじゃったって。  
カドタ こつち！  
タマダ ここ！  
カドタ 角はこつちだったって言ってんだろ。  
タマダ だから角はもともとこつちだったって言っとるじゃろうが。  
カドタ 証拠は！  
タマダ そつちこそ証拠は！  
カドタ 証明しろ！  
タマダ そつちこそ！  
マツダ 水掛け論ですね！  
タマダ 熱い熱い、本当に水でもかけて冷やしてやれ。  
カドタ はぐらかすなよ。絶対間違いない！ 証拠は俺の記憶だ！  
タマダ 記憶は嘘をつく。証拠というなら記録をもってこい。  
カドタ 記録？ 賭け将棋で棋譜なんかとってるかよ。  
マツダ 棋譜？  
カドタ うるさーい！！  
タマダ 棋譜っていうのは  
カドタ ジジイもうるさーい！！  
タマダ じゃあ証拠は。  
カドタ 俺の記憶！  
タマダ 記憶なんてあてにならん。記録をもってこい！  
カドタ 記憶！  
タマダ 記録！  
カドタ 記憶！  
タマダ 記録！  
カドタ 記憶！  
タマダ 記録！  
カドタ 記憶！  
タマダ 記録！

カドタ、タマダ息切れ。  
二人とも多少冷静になつて：

マツダ 堂々巡りですね。  
タマダ 将棋ではこういうのを千日手というんだ。同じ局面を繰り返して、いつまでたつても状況が変わらん。  
マツダ そういう時はどうなるんですか？  
タマダ 同じことを千日繰り返して、先に倒れた方が負け。  
マツダ 過酷ですね。

カドタ 嘘教えるなよ。三回同じ局面を繰り返したら、初めから指しなおし。  
マツダ 安直ですね。  
タマダ ほれ、どうしたね。そっちの番だよ。  
カドタ (打つ) そうか、よし。  
タマダ (打つ) ん？  
カドタ (打つ) どうよ。  
タマダ (打つ) なるほどそうきたかね。  
マツダ あれ、元の形にもどった。  
カドタ (打つ) もう一回。  
タマダ (打つ)  
カドタ (打つ)  
タマダ (打つ)  
カドタ (打つ)  
タマダ (打つ)  
カドタ (打つ)  
タマダ (打つ)  
カドタ (打つ) これで千日手。

千日手が成立する。

タマダ …くそう、逃げられたか。  
カドタ よし、勝負なし！  
タマダ それで喜ぶのもどうかと思うがね。  
カドタ とりあえず負けよりはいいだろ。  
マツダ あの。  
タマダ なんだね。  
マツダ 私もやってみてもいいですか？  
タマダ 将棋？  
マツダ はい。  
カドタ 俺の指しなおしが先だよ。  
マツダ あ、じゃあ一緒に。  
カドタ 将棋は3人じゃできません。  
マツダ できますよ。  
カドタ どうやって。だいたいさつきまで王手も王将も知らないかったのにできるわけないだろ。

マツダ、将棋の駒をかき集めて箱に入れて将棋盤の上にひっくり返す。  
箱をゆっくりと外すと、将棋が山のように積み重なっている。

マツダ こうです。  
タマダ 将棋崩しか。たしかにそれなら三人でできる。  
マツダ ルール知ってます？  
カドタ 知ってるよ。音を立てずに指一本だけで自分のところまで駒を運んで、数が多かった方の勝ちだろ。

マツダ 立てて運んだら点数倍とかのローカルルールは無しの方向で。  
タマダ よからう。

タマダ、袂を括ってかなりやる気。

カドタ 爺さん、えらくやる気だな。  
タマダ かつては崩しのタツちゃんと呼ばれたこのワシだ。将棋でもブロックでも積木でもなんでも崩してみせよう。

カドタ いや、崩して音たてちゃダメなんじゃねえの？

タマダ 本物の「崩し」は音などたたん。

カドタ 本当かよ。

タマダ 論より証拠。

カドタ レートは？

タマダ 場代1万。親は無しの勝ったら総取りで

カドタ つてことは、勝ったら2万か。乗った。

マツダ 乗った！

カドタ 本気？ 手加減しないよ？

マツダ そっちこそ吠え面かくなよ！

カドタ なんだあ？！

マツダ ……って一回言ってみたかったんですよね。

カドタ 何様だよ！

マツダ あゆ様です。

カドタ 喧嘩売ってるの？

マツダ 小中の友達はマツタと呼びますが、高校の友達は私のことをアユと呼びます。フル

ネーム、マツダアユミ。亜米利加軍の亜、東シナ海油田の油、年金未払いの未で亜・油・未！ ではなくてシンプルに歩くと書いてアユミです。

カドタ 聞いてない。

タマダ、どさくさのなかでコッソリ将棋崩しを始めている。

カドタ 何がアユミだよ。お前なんか歩(ふ)だ、歩(ふ)。

マツダ いつかは何かに成れるでしょうか。

カドタ なるるなれる。味噌汁の具とか、鯉の餌とか。

マツダ マジレスするとその麩じゃないです。

カドタ わかっているからマジレスすんな。

マツダ で、あなたは？

カドタ え、俺？

マツダ 名前。

カドタ、名乗らない。

マツダ どうした其処許、名を名乗れ！

タマダ (カドタを指して) 世も末の末に、七転八倒の七で末七。

カドタ 違うよ！ 誰だよそれ。

タマダ 松平健の本名。鈴木末七。  
マツダ へえ。やりますね將軍。

カドタ っていうか、何勝手に始めてんだよ！ ジジイ。  
タマダ タマダ。

カドタ ？

タマダ 坂東玉三郎の玉に、織田信長の田でタマダ。

カドタ はあ？

タマダ (おまかせ) 玉山鉄二の玉に、織田裕二の田でタマダ。

カドタ うるせえよ、金玉田吾作！

タマダ うひゃー、築き上げたイメージが台無し。お前さん、いくらなんでも女性の前で、

金玉田吾作はないだろうに。

カドタ 普通に名乗れよ、普通に。

タマダ いやあなたかそういう流れかなあと思ってねえ。で、お前さんは。

マツダ お前さんは？

カドタ、答えない。

タマダ 人のことを金玉だ田吾作だと言うからには、さぞかし立派な名前なんだろうねえ。  
カドタ …カドタ。

マツダとタマダ、ふんふんとうなずく。

マツダ# で？

タマダ# で？

カドタ で？ってなんだよ。

マツダ 続きは？ なんとかかのカドになんとかのタとか。

カドタ なんとかもかんとかもねえよ。(駒の角を指して) その角に田んぼの田。

マツダ つまんないー。

タマダ おもんないー。

カドタ 名前に面白いも何もねえよ。

マツダ 門前払いの門に、追って沙汰をするの汰で門汰だと思ったのに。

カドタ ねえよそんな苗字。

タマダ カドリードミニオンのカドに、多摩動物園の多でカド多かと思ったのに。

カドタ 思うな。それから、いいかげんに止めるよその手を。

タマダ 練習練習。

カドタ じゃあ俺も。

マツダ じゃあ私も。

三人とも好き勝手に将棋崩しの練習を始める。

盤上の駒がなくなる。

マツダ じゃあ、本番で。

タマダ では場代を。

マツダ じゃあ、これで。

マツダ、1万円札を出して渡す。

タマダ (札をピンと弾いて) はい、確かに。

カドタ、2千円札を5枚出す。

タマダ おおお、恵三ファイブ。ちゅうちゅうたこかいな。2千円札五枚で1万円と。これだけ揃うともうさすがに感動が薄れてきたねえ。

タマダ、これまでせしめた札を取り出して：

タマダ ちゅうちゅうたこかいな、ちゅうちゅうたこかいな。千円十枚で1万円と。

タマダ、場代を三人の中間地点くらいに置く。

マツダ、駒を箱に集めて将棋盤の上に置く。

マツダ 順番は？

タマダ レデイファーストでどうぞ。

マツダ いいんですか？

カドタ ダメに決まってるんだろ。

タマダ つまらん男だねえ。

カドタ つまるとかつまらないとかじゃないんだよ。勝つか負けるか。

マツダ じゃあどうぞ。

カドタ え？

マツダ どうぞお先に。

タマダ じゃあ(カドタを指して) 1番、(マツダ) 2番、(自分) 3番じゃな。

カドタ え？ いいの？

マツダ どうぞどうぞ。

タマダ どうぞどうぞ。

カドタ え、なに。将棋崩しにも後手有利とかあんの？ ウィキペディアに書いてあんの？

タマダ さてねえ。

カドタ え、え？ どつちなんだ。どうすんだ、俺。

マツダ それじゃあ、いきますよ。

マツダ、そおつと箱を上にあげる。

見事な将棋の山。

タマダ お見事。

マツダ どうぞ。

カドタ、迷いながらも山に指を伸ばす。

緊張で少し指先が震えているように見える。

カドタ 平常心、平常心。

「14…40」

静かな間。

静寂の中、カドタ、最初の一枚を取る。

カドタ ふー。次。

カドタ、二枚目にかかる。

タマダ (王将をハミングで) ふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん。

カドタ ダーッ！ 静かにしてろよ！ 集中できないだろ！

タマダ だからウイキペディアには多少雑音があった方が集中力が…

カドタ 俺、ペディア的にはない方がいいんだよ。自分で言うのもなんだけど、デリケートなんだよ、俺は。

タマダ 確かに。すぐ熱くなるしな。

カドタ いいから黙ってろよ。よーしきた。

カドタ、二枚目を取り終え、三枚目にかかる。

タマダ なあ。

カドタ (無視)

タマダ なあ。

カドタ (小声で) うるさいよ。

タマダ 緊急、緊急！

カドタ (小声で) 何が

タマダ とにかく緊急！

カドタ、三枚目を取り終え、四枚目にかかる。

カドタ よしよしいい調子、いい調子。

カドタ 緊急速報！

カドタ なんの。

タマダ ビクッときそう。

カドタ は？

タマダ 攣りそう。

カドタ 何が。

タマダ 足、足。

カドタ 知らねえよ、つと。

カドタ、四枚目を取り終え五枚目にかかる。

タマダ あたたたた、あいたたたた…

カドタ ふー。よし、次。

カドタ。五枚目を取ろうと駒に手をかけた瞬間：

タマダ  
カドタ  
グアー！ 擽ったー！  
(驚いた) ！！

カドタ、ビクリとして駒を鳴らしてしまふ。  
タマダ、そのまま縁台から転がり落ちる。

マツダ  
カドタ  
鳴った！

カドタ  
タマダ  
おいコラ、ジジイ！

(縁台の下に転がったまま) ジジイじゃなくて、タマダ。児玉清の玉にの松田優作の  
田！

カドタ  
タマダ  
なんじゃそりゃあ！

カドタ  
マツダ  
アタックチャンス！

カドタ  
タマダ  
鳴りましたよね、今。

カドタ  
タマダ  
鳴ったよ。鳴ったけど、無しだろ。わざとだろ、今の。

カドタ  
タマダ  
ワザとじゃない、不可抗力。あいたたたた。

カドタ  
タマダ  
不可抗力？

たまたまお前さんが駒に触った瞬間にワシの足が擽った。この二つに因果関係はな  
い。いたたたた。

マツダ、タマダの擽った足を伸ばしたりする。

カドタ  
タマダ  
明らかに待ち構えてただろ！

カドタ  
タマダ  
だから足が擽りそうだと事前に言っただろうに。

カドタ  
マツダ  
言ったからなんだよ。

カドタ  
マツダ  
警告は出した。無視したのはそっち。

カドタ  
タマダ  
あの、やっちゃってもいいですか？

カドタ  
タマダ  
どうぞどうぞ。

カドタ  
マツダ  
待てよ、俺は認めてねえぞ。

タマダ  
マツダ  
よしんばワシが待ち構えていたとしても、彼女は無関係。  
無関係でーす。

マツダ、カドタを無視して始める。

カドタ  
タマダ  
…まさか、グルか？

カドタ  
タマダ  
誰が。

カドタ  
タマダ  
あんた(タマダ)とあんた(マツダ)が。

カドタ  
タマダ  
想像力豊かだねえ。

カドタ  
タマダ  
うわ、俺まさか嵌められた？

カドタ  
タマダ  
考えすぎ、考えすぎ。

カドタ  
冷静に考えたら怪しさ満載じゃん。だいたい、こんな平日の昼間っからフラフラし  
て賭け将棋とか一体何者だよ。



タマダ それは丸々お前さんのことだろ。

マツダ、一枚目をゲット。

マツダ 働いてます。普通の会社員です。

カドタ なんて普通の会社員が仕事もしないでこんな時間にフラフラしてんのさ。有休？  
それともシフト制とか夜勤とか？

マツダ 普通に土日休みの昼勤務です。今日は…サボりました。

カドタ サボった。

タマダ ほほう。

カドタ それって社会的にアリなわけ？

マツダ ナシですね。会社には昨日の晩食べた何かに当たって、ノロウイルス的なものでピーピーゲーゲーしてるってことになってます。

マツダ、しゃべりながら二枚目をゲット。

マツダ カクタさんこそ、こんな平日の昼間から何やってるんですか。

カドタ 。

マツダ 将棋の駒の角に田でカクタさん。

カドタ 角田って書いてカドタ。

マツダ そうでしたっけ。

カドタ そうでした。というかそうだよ。自分の名前、間違えるわけないだろ。

タマダ 年を取ると、ときどき自分が何者だかわからなくなる時があるぞ。

カドタ 年とってないし、分からなくならないし。

マツダ カドタさんは。

カドタ 俺、フリーターだから。金曜の昼過ぎとか別に忙しくないし、シフト薄いから働き

たくても入れないし。

マツダ で、昼から賭け将棋ですか。パチンコとかじゃダメなんですか？

カドタ ウルサイの苦手なんだよ。

マツダ、しゃべりながら三枚目をゲット。

タマダ 会社サボって外で賭け将棋というのもなかなか大胆だねえ。

カドタ なんてサボったのさ？

マツダ 朝、寝坊したんです。

タマダ 年を取ると、寝坊とは無縁になるぞ。なんせ朝4時には嫌でも目が覚める。

カドタ 寝坊って、どれくらい？

マツダ 1分です。

カドタ 1分？

マツダ はい。

カドタ それって寝坊のうちに入るの？

マツダ もちろんです。

カドタ え、なんで1分寝坊したくらいで会社サボることになんの。

マツダ 1分寝坊すると、会社に遅刻しちゃうので。

カドタ そんなに毎日ギリギリに会社行ってんの？  
マツダ いいえ？ むしろ毎日一番乗りです。  
カドタ でも1分寝坊したら遅刻しちゃうんだろ。  
マツダ はい。  
カドタ ええと、どういうこと？

マツダ、一旦将棋崩しの駒から手を離して：

マツダ 話せば長くなるんですけど、いつもなら毎朝5時45分ちようどの目覚ましをワンコールで速攻止めて、布団を飛び出しシャワーを浴びて：

時間が進んでいく。

「14…43」

「14…44」

「14…45」

マツダ …電車で揺られて32分。ホームから改札を抜けて会社まで徒歩9分。8時31分に会社に着く。始業は8時30分。つまり1分の遅刻。遅刻するくらいなら、休んじやおうと思つて。

マツダ、将棋崩しを再開して、四枚目をゲット。

カドタ それで1分寝坊しただけで遅刻になっちゃうわけね。なるほどねえ。

マツダ そうなんですよ。スタートが1分ずれると、あとのバスも電車もどンドンズレつて、結局会社に着く時間が30分以上も違っちゃうんです。

カドタ でも、それつてさ。急げば間に合ったんじゃないの？ 会社。

タマダ 確かに。

マツダ 急ぐ？

カドタ シャワーを早く切り上げるとか、化粧をちよつと薄くするとか、歩くところをちよつと小走りにするとか。

マツダ ダメなんです、そういうの。早くとか、急ぐとか。

マツダ、五枚目を取ろうとして山を崩してしまう。

カチリと駒と駒のぶつかる音が響く。

カドタ 鳴った！

マツダ 鳴っちゃいましたね。

タマダ お待たせいたしました。人呼んで崩しのタツちゃん。参ります。

「14…46」

触つてもいないのに突如山が崩れる。

ガチャガチャと派手に駒と駒のぶつかる音が響く。

タマダ

おわっ！？

カドタ  
マツダ  
鳴った！

さすが、崩しのタツちゃん。

カドタ  
タマダ  
待て。今のは違う。触ってない。

カドタ  
マツダ  
触らずに崩すなんて、さすが崩しのタツちゃん。

マツダ  
達人ですね！

タマダ  
いや、それほどでも。

カドタ  
じゃ、俺の番ね。

タマダ  
待った待った、確かに鳴ったが、今のは無しだろう。

カドタ  
待ったは：今回いくらだっけ？

将棋崩しは待ったなし。一度崩れたら、元の形には戻せんからな。いや、その待ったじゃなくて、とにかく今のは何か超常現象とか天変地異とかの類で、ワシの責任じゃない。

カドタ  
だからって俺の責任でもないし。

マツダ  
私の責任でもないです。

タマダ  
むむむむむ。

マツダ  
鳴ったか鳴らないかで言えば鳴りましたよね。

タマダ  
はい。

マツダ  
将棋崩しのルールは、音が鳴ったら交代。そうですね。

タマダ  
とはいえ、こんな音の鳴り方は想定外。

マツダ  
でも今更元には戻せない。

タマダ  
むう。

現実、音が鳴ったわけですから、ルール通り交代するのが筋でもんじゃないでしょうか。

カドタ  
(拍手) 素晴らしい！ ということで俺の番でいいよね？

カドタ、意気揚々と山に指を伸ばす。

と、またしても触ってもないのに山が崩れる。

響き渡る駒音。

タマダ  
鳴った！

マツダ  
鳴った！

カドタ  
待った！

タマダ  
待ったなし！ 鳴った！

マツダ  
鳴った！

タマダ  
鳴った！

マツダ  
いや、確かに鳴ったけどさ、俺、触ってないし。

カドタ  
ルールですから。

マツダ  
そのルールおかしいんじゃないの？

タマダ  
さっきそのルールに拍手したのは誰だったかねえ。

カドタ  
そりゃそうなんだけども、いざ自分の身になってみると、なんだろう、このものす

ごい納得いかない感。だって、確かに鳴ったけど、俺のせいじゃないんだぜ。

タマダ  
ワシのせいでもないけどな。

マツダ 私のせいでもないです。  
カドタ 変えない？ ルール。

タマダ そうは言っても、途中で変えるつてのも公平じゃなからう。せめて一周した後なら  
わからんでもないが。

カドタ でもさあ。

マツダ 白黒はつきりつけましょうよ。現実、音が鳴ったわけですから、ルール通り交代す  
るのが筋つてもんじゃないでしょうか。

タマダ (拍手) 素晴らしい！

マツダ ということ、私の番です。

マツダ、山に指を伸ばす。

マツダ 熱っっ！

マツダ、山から反射的に指を離す。

カドタ なんだ？

タマダ どうしたね。

マツダ 熱が。熱いです、この駒。

タマダ 熱い？

カドタ ちよつと失礼。

タマダ どれどれ。

タマダとカドタ、駒を触るがなんともない。

タマダ 別になんともないようだがねえ。

カドタ 気のせいじゃないの？

マツダ でも今確かに。

タマダ どの駒かね。

マツダ (角を指して) これです。

タマダ (触って) 熱っっ！

カドタ またまた。そんなことあるわけないじゃ…熱っっ！ 熱っっう、なんだこれ！？

三人、お互いを見回して…

マツダ# あの

カドタ# えーと

タマダ# いいかね

静かな間。

マツダ あ、どうぞ。

カドタ どうぞどうぞ。

タマダ どうぞお先に。

三人、譲り合うが、なんとなくマツダから話す流れになる。

マツダ あの、これ、どうなんでしょうか。  
タマダ これは、うむ、なんだ。  
カドタ ぶっちゃけヤバくない？  
マツダ ヤバいですよね。  
タマダ いや、まあ、どうだろうねえ。  
カドタ ヤバいって。  
マツダ 普通、熱くないですよね。  
タマダ まあ、そうかもねえ。  
カドタ おかしいだろ、どう考えても  
マツダ おかしいですよ。  
タマダ いや、何かの勘違いかもしれんぞ。  
カドタ じゃあ確かめてみるよ。  
マツダ お願いします。  
タマダ ごめんなさい。  
カドタ なんだよ！  
マツダ やっぱり変なんだ。  
タマダ 勘違いかもというのが勘違いでした。  
カドタ どうすんだ、これ。  
マツダ どうしましょう。  
タマダ どうしましょう。  
カドタ 知らねえよ。  
マツダ あの、どうぞ。  
タマダ お先にどうぞ。  
カドタ どうぞどうぞ。  
マツダ どうぞどうぞ。  
カドタ どうぞどうぞ。

三人、一転して順番を譲り合う。

カドタ# (じゃんけん) 最初はグー！じゃんけんぽん！  
タマダ# (じゃんけん) じゃんけんぽん！  
マツダ# (じゃんけん) じゃんけんぽん！

スローモーション。

カドタ# (じゃんけん) ふうおん! ふうおん! ふうおん! ふうおん! ふうおん! ふうおん! ふうおん!  
タマダ# (じゃんけん) ふうおん! ふうおん! ふうおん! ふうおん! ふうおん! ふうおん! ふうおん!  
マツダ# (じゃんけん) ふうおん! ふうおん! ふうおん! ふうおん! ふうおん! ふうおん! ふうおん!

マツダ、圧倒的敗北。

時間の流れが元に戻る。

マツダ あっちやー!

タマダ どうぞ!

カドタ どうぞどうぞ!

マツダ 私ですか。

タマダ よろしくお願いします。

カドタ 任せた。

マツダ こういうの、男の人の仕事なんじゃないですか?

タマダ レディファースト!

マツダ 意味違います。

カドタ 男女平等!

マツダ 悪平等です、

タマダ とにかく

カドタ なんとか

タマダ この通り

カドタ# お願いします!

タマダ# お願いします!

マツダとタマダ、全力での「この通り」

マツダ しょうがないなあ…。

マツダ、恐る恐る将棋崩しを再開。

マツダ、駒をどんどんカドタの方に持っていく。

カドタ ん? おい、何やってんだよ?

マツダ えへ。

カドタ えへじゃねえよ。

マツダ じゃあ、てへぺろっ。

カドタ そうじゃない。何で俺のところを持ってくんだよ。

マツダ 何で? うーん、何ででしょう。

マツダ、黙々と瓦礫を運ぶ。

カドタ やめてくんない?

マツダ どうしてですか?

カドタ どうしてって、何か気持ち悪いんだよ。

マツダ、両手を使ってスピードアップ。

カドタ だからやめろって。

タマダもそれを手伝い始める。

カドタの前にみるみる駒がたまっていく。

音楽。

どんでん返しが回り始める。

カドタ おい、ジジイ！

タマダ (無言)

カドタ おいってば、やめろって！ 何やってんだよ。

角2枚を残して、次々に駒が積み上げられていく。

もう音が鳴ろうが手を止めないマツダとタマダ。

カドタ 今鳴っただる。鳴ったって！ 手え離せ！ 触んなよ！

どんでん返しが何週か回り、元に戻る。

いつのまにか、タマダとマツダの姿が消えている。

カドタ え？

盤上には角2枚だけが残されている。

カドタ (近寄って) 熱っ！ どうすんだ、これ。おい、誰か！ なんか、冷やすもの。水、水！

遠くから地響きのような、水音のような、不気味な音。

カドタ、その姿を遠くに見ながら…

カドタ 待った！

暗転。

闇の中、パチリと駒を打つ音。

「14…31」

賭けオセロをするタマダとカドタの姿。

変わらず、汚い筆書きで「一局千円から。勝ったら十倍」の文字。見た目、黒（先手番）の石が多く、優勢である。

カドタ よし、いける！ 今度こそいける！

タマダ はいはい。

カドタ 一発逆転。

タマダ できたらいいねえ。

カドタ 一攫千金。

タマダ 狙って気がつきや二束三文。

カドタ 一挙両得。

タマダ あちらがたてばこちらがたたずの二律背反。

カドタ 一石二鳥。

タマダ 二兎を追うものなんとやら、と。（最後の白を打つ）

カドタ …あれ。

白黒ほぼ同数で、勝敗は微妙な感じに見える。二人、石を集めて、盤上に並べて数え始める。

カドタ 1、2、3、4、5、6、7、8

タマダ はいはい。

カドタ 9、10、11、12、13、14、15、16

タマダ はいはい。

カドタ 17、18、19、20、21、22、23、24

タマダ まだまだ。

カドタ 25

タマダ はい。

カドタ 26

タマダ はい。

カドタ 27

タマダ はい。

カドタ 28

タマダ ほれ。

カドタ 29

タマダ ほーい。

カドタ 30

タマダ よいしょ。

カドタ 31

タマダ はい。



カドタ、石がなくなる。

タマダ 32、33。ほっほーい。

タマダの勝利。

カドタ ああもう、くっそー！ また負けた。

タマダ 二度あることは三度ある。三度目も正直すぎる攻め手だねえ。若い若い。まだまだ修行が足りんようだねえ。

カドタ こうきたらこう、ああきたらこう。だからってこういけばこう受けられてこう。ああ、もうどう打てばよかったんだよ！

タマダ (袂から金を取り出して数える) ちゅうちゅうたこかいな。(もう一回数えて) ちゅうちゅうたこかいな。ただ今の対局、場代千円、待った4回で4千円。べて5千円也。

その前の二局分が2千円と3千円。ご破算で願いましたは2千円也、3千円也、5千円では。

カドタ …一万円。

タマダ ご明算！

カドタ くっそー！

タマダ 毎度どうもありがとうございます。略してまいどあり！

カドタ もう一局。

タマダ 懲りんねえ。

タマダとカドタ、石を並べる。

カドタ、あたりを見回して…

タマダ どうしたね？

カドタ いや。誰かいたような気がして。

タマダ そうかね？

カドタ そろそろ、そういう時間のはずなんだけど。

タマダ 何を言っとるんだ？

カドタ、スマホで時間を確認して…

カドタ 今、何時？

タマダ 腹時計でほしい3時。

カドタ いや、腹時計じゃなくて。

タマダ 日時計でほしい2時。

カドタ そういう問題じゃなくて、

間を取ってほしい2時半。

カドタ だから、だいたいじゃなくて、今何時よ。

タマダ 今、携帯で見てたんじゃないのかね。時間。

カドタ 2時33分？

タマダ (自分の携帯をみて) 合つとる。2時33分。

カドタ だよね。  
タマダ 負けすぎておかしくなったかね。  
カドタ ぬかせ。一発逆転。今度は2千円で。  
タマダ ほしい、どうぞどうぞ。  
カドタ 賭け金十倍。勝ったら2万円。  
タマダ とらぬ狸の皮算用と。(手を出して) それではまずは場代を。2千円で。

カドタ、二千円札を取り出してタマダに渡す。  
タマダ、札を数えようとして

タマダ ちゅうちゅ：ん？ おおおおお、びっくりした。いまどき二千円札 by 小淵恵三とは。驚いてショック死するかと思った。

カドタ そのまま死にやあよかったのに。  
タマダ 使わんよなあ、二千円札。というか使えんよなあ。当時、店で勘定の時に使うとあからさまにいやな顔されたもんなあ。よし父さん、西暦2000年だから二千円札作っちゃうぞー！とか、そんなんでよくこの国はいままで無事にやってこれたもんだ。バイト先で無理矢理押しつけられるんだよ。入金機に入らないからって。

カドタ ほう、バイト。  
タマダ コンビニ。  
カドタ ほうほう。

カドタ いらぬなら返せよ。  
タマダ いますいます。小淵に罪はあってもお金に罪はない。いやあ本当に久しぶりに見た。拝んどこう。どうぞ人類がこの過ちを二度と繰り返しませんように。

カドタ 何ボンボン壮大なこと言ってるんだよ。  
タマダ あと、娘の小淵優子が平成25年を記念して25円玉を作るとか言い出しませんよ  
うに。

カドタ 先手は？  
タマダ どうぞ。

カドタ いやいや、どうぞどうぞ。

タマダ お先にどうぞ。

カドタ なんか怪しいんだよな。

タマダ 何か？

カドタ さつきからずっと後手じゃない。

タマダ そうだねえ。

カドタ なんて。

タマダ なんか秘密がない？

カドタ 多分ない。

タマダ 多分ってなんだよ。

カドタ オセロの先手は後手に同じ。先手であって後手である。後手のようで先手である。

タマダ なんだよ？ 禅問答？

カドタ 例えば、お前さんが先手だとしよう。黒をどう打つね。

カドタ (F5に打って) こう？

タマダ 他にはどう打てるね？

タマダ

カドタ (E6) こう。

タマダ あとは？

カドタ (C4) こうか (D4) こう。全部で4パターン。

タマダ というのが大間違い。

カドタ ？

タマダ 打てるのは1パターンだけ。どこに打とうが、黒がTの字に4枚とその斜め下に白が1枚という同じ形にしかならんからな。見方を変えてみればどこに打とうが全部一緒ってわけだ。

カドタ なるほど、そういうことか。

タマダ (手を出して) 授業料。

カドタ 払うかよ。っていうか、授業料ならもう散々払ったろ。

タマダ 確かに。

カドタ ってことは要するに黒の一手目は打たされてるようなもんで、後手が有利なんじゃないのかよ、このクソジジイ！

タマダ そうではない。オセロの先手と後手、どちらが有利かはわかっておらん。

カドタ 信用できるかよ、こっちは先手で3回続けて負けてんだぞ。

タマダ それは実力の差。

カドタ なんだと！

タマダ では、今度はワシが先手で。

カドタ え？ いいの？

タマダ どうして。

カドタ いや、そんなにあっさり、いいのかな、と思つて。

タマダ 先手でも後手でも構わんよ。

カドタ そんなこといって、本当は後手じゃないとこまるんだろ？

タマダ じゃあ喜んで先手で。

カドタ 心理戦？

タマダ 何を言つとるんだ？

カドタ じゃあ、じゃんけん！ はなんだかものすごく負けそうな予感がするから、次にここを通りがかるのが男か女かで。

タマダ よからう。

カドタ 俺、女！

タマダ じゃあ男で。

と、遠くから女性の声と人の気配が、出てきたのは、謎の男。

謎の男 (おまかせ) あの、すみません、ボトムズアップギターズっていう高級ギターの専門店がこの辺にあるって聞いたんですけど…。

タマダ (おまかせ) ああ、それならそこ出て左の奥だねえ。

謎の男、去る。

カドタ なんだよ、今の！  
タマダ 知らんよ。ただの通行人だろうに。

カドタ うわあ、納得いかねえ。  
タマダ それじゃあ、後手で。

カドタ 先手って、どうせどこに打つても一緒なんだから。(なげやりな感じに1手目D3)  
タマダ 後手も大してかわらんよ。打てるのは3か所だけだからねえ。そのうち1つはあまりよくない打ち筋だと言われておるし、実質2か所ということかな。(2手目C3)

と、そこにマツダが姿をあらわす。

マツダ あの。

カドタ 遅いよ!

マツダ え、何がですか? っていうか誰です?

カドタ いや、こつちのこと。(3手目C4)

タマダ どうかしたかね? (おまかせ) 高級ギターの専門店ならそこを出て左の奥だよ

(4手目C5)

マツダ いえ、そうじゃなくて、あの、これって、オセロですよね。

タマダ いかにも。

マツダ 見てもいいですか?

カドタ なんです。

マツダ 暇なんです。

カドタ 暇つぶしかよ!

マツダ あと、白黒ハッキリつくのが好きっていうか。∴ダメですか?

タマダ ギャラリー大歓迎。

カドタ やだよ。

タマダ どうして。

カドタ 気が散る。

タマダ 散つても散らんでも大して変わらんだろうに。いいよいいよ、ゆっくり見てなさい。

まあ、ゆっくりする暇もなく、すぐ終わるかもしれないが。

カドタ 見てろよ。(5手目C6)

タマダ はいはい。(6手目F4)

カドタ (7手目F3)。

タマダ (8手目D6) ならばこう。

カドタ (9手目F5) じゃあこう。

マツダ 黒6個对白7個で1個差。いい勝負ですね。

カドタ 1石差。

マツダ セキ?

タマダ オセロの駒は囲碁と同じで「石(いし)」だからねえ。教える時は1石(せき) 2石

(せき)と数えるのさ。

マツダ そうなんですネ。

タマダ (10手目D2) 中辺。っていうのは、外から2列目のこのあたりのことね。

マツダ そこに打つとどうなるんですか?

タマダ 次の手で一番外側の辺に石を置けるようになるからね。いよいよ勝負所ってことか

ねえ。

カドタ (一瞬D1に打ちかけるが) その手にはのらないぞ、と。(11手目E6)

タマダ (12手目D7) じゃあ、もひとつ中辺。

マツダ あの。  
カドタ 何。  
マツダ ずっと気になってるんですけど。  
カドタ 何が。  
マツダ ライオンちゃんの。  
カドタ 鼻は黒！  
タマダ 何の話だね。  
カドタ ライオンちゃん。おはようからおやすみまでのライオンのキャラクター。  
タマダ ああ、あの黄色と緑の。  
カドタ 鼻の色は何色かだろ。黒だよ黒。  
マツダ いえ、鼻じゃなくて、肉球。  
カドタ 肉球？  
マツダ はい。ライオンちゃんの肉球って何色ですかね。  
カドタ それってなんかオセロに関係あるの。  
マツダ ないです。  
カドタ ないなら聞くなよこんなタイミングで。  
マツダ ないんですけど、さっきからずっと気になってて。  
カドタ 気になってるからって今聞くことかよ。  
マツダ ごめんなさい。でも知りません？

カドタ、自主的にググって。

カドタ 黒。

カドタ、マツダとタマダに画面を見せる。  
鼻と肉球が黒いライオンちゃん、壁に映写される。

カドタ ライオンちゃんの肉球は黒。  
マツダ おー！  
タマダ ほー！  
マツダ すっきりした！ ありがとうございます！  
タマダ 案外思いつけませんでしたね。  
マツダ 鼻の色と同じなんですわね。  
タマダ 案外思いつけませんでしたね。  
マツダ でもなんでそもそもライオンが黄色と緑なんでしょうね。  
タマダ 世の中わからんことだらけだなあ。  
カドタ (13手目B3) じゃあこっちも中辺。  
タマダ (14手目B4) その手は桑名の焼き蛤と。  
カドタ ふう。  
タマダ やれやれ。

局面が拮抗する。

マツダ あ、ちょうど同点ですよ。

カドタ　なあ爺さん。  
タマダ　なんだね。

カドタ　レイズ。  
マツダ　(手を挙げてる)

タマダ　レイズ、賭け金を途中で増やすってことだよ。

マツダ　(マツダ、手を降ろす)

タマダ　よかるう。いくらだね。

カドタ、2千円札を5枚渡す。

タマダ　おおお、恵三ファイブ。ちゅうちゅうたこかいな。2千円札五枚で1万円とは大きく出たね。

カドタ　(15手目E3)　ここが勝負所だろ。

タマダ　(16手目B5)　確かに。

カドタ　もう一回、レイズ。受ける？　降りてもいいんだぜ、爺さん。

タマダ　受けましょう。いくらだね。

カドタ、財布の中身を全部タマダに。

タマダ　そういうのはやめといたほうがいいと思うがね。

カドタ　何？　怖気づいた？

タマダ　ギャンブルは種銭をなくしたらおしまいだ。

カドタ　なくならないよ、十倍にして帰ってくるからさ。(17手目A6)　これでどうよ！。

タマダ　ほほう。なるほど、強気なわけだ。(18手目C2)

カドタ　そしてこう。(19手目A4)

タマダ　じゃあ、こうじゃな。(20手目A3)

カドタ　次はここ！(21手目C8)　どうよ、爺さん！

マツダ　すごい、押してますね！

タマダ　少し欲張り過ぎじゃないかね？(22手目D8)

カドタ　それでこうだろ！(23手目C1)

タマダ　目の前のことに気を取られ過ぎて、大局をつかみ損ねるのは、どうかと思うがね。

(24手目B8)

マツダ　あれ…大丈夫ですか？

カドタ　いいんだよ。これでこっちがここ(A8)の隅を取りやすくなるんだから。計算通り。(25手目A5)

タマダ　とらぬ狸の皮算用と(26手目A7)

カドタ　(27手目C7)　言ってる。

タマダ　(28手目B6)　言いましたよ。

カドタ　あれ…？

カドタ、いつの間にか圧倒的に不利な形になっている。

タマダ　さて、どう打つね。

カドタ　ま、待つ…

カドタ、待ったができないことに気付く。  
カドタ、慌ててポケットを探るが、もちろん種銭が出てくるわけもない。

タマダ 待ったなし。

カドタ (29手目E8) いっだ。

タマダ (30手目F8) …。

カドタ (31手目B7) どうしてこうなった？

タマダ (32手目F7) これで決まりかねえ。

カドタ 何か、何か手がないか。(33手目E7)

タマダ ご愁傷様。(34手目A8)

マツダ あ、角、とられちゃった。

カドタ (G7・G8と迷うがどこでも不利な形は変わらない) こう打てばこう、こう打って

もこう。(あきらめて35手目A2)

タマダ 八方ふさがりじゃな。(36手目A1)

マツダ あ、こっちの角も。

カドタ (投げやりに37手目G8) …。

タマダ (38手目G7) …。

カドタ …こしか打てない。(39手目G6)

タマダ (40手目H7) ではこう。

カドタ (41手目パス) パス。

タマダ (42手目H8) ほい。

カドタ (43手目パス) パス。

タマダ (44手目F6) ほい。

カドタ (45手目パス) パス。

タマダ (46手目H6) ほい。

カドタ (47手目パス) もう好きにしてくれよ！ パス。

タマダ (48手目B2) それ。

カドタ (49手目パス) だから、もう打つ手がないんだよ！！

音楽。

時間が一気に回り始める。

どんでん返しもぐるぐるとまわり始める。

「3月11日 14…46」

「3月12日 15…36 #1」

「3月14日 11…01 #3」

「3月15日 6…14 #3 #4」

「3月15日 8…25 #2」

「3月15日 9…38 #4」

「3月16日 5…45 #4」

「3月16日 8…37 #3」

「5…46」

「1月17日 5…46」

静寂。

どんでん返しでマツダが姿をあらわす。

マツダ

人は、忘れる。自分の身に起こったことでなければなおさらだ。ついこの前の14時46分も、遠い国の12時51分も、ずいぶん昔の5時46分も、画面の向こうの出来事だから、いつかきつと忘れてしまう。そして、忘れた頃にまた思い出すのだ。角の取れた、丸いサイコロは、いつ止まるともしれず、転がり続ける。サイは投げられた。でも、角のないサイコロはただただ転がり続け、いつになっても、何の目も、何の答えも出さない。まるで終わらない千日手のように。

目を覚ますんじゃない。何故だか目が覚めるんだ。5時45分。あの日、あの時間の1分前。まるで自然という名の調教師に仕上げられた、サーカスのライオンのように。

時計のアラームが鳴る。

「5…46」

マツダ

ねえ、白と黒、どちらが表でどちらが裏だと思う？

どんでん返しがり、タマダとカドタが姿を現す。

タマダ

(50手目B1) もう目がないよ。

カドタ

こっちか。こっちか。いや、やっぱりこっちか。どっちなんだ。(G5かE2か迷って51手目E2)

タマダ

(52手目D1) もう勝ち目がない。

カドタ

(53手目G5) まだまだ。

タマダ

(54手目H5) 本当はわかってるんだろう

カドタ

(55手目パス) …パス。

タマダ

(56手目G3) もうどう打つても

カドタ

(57手目G4) …。

タマダ

(58手目H4) もうどうあがいても、

カドタ

(59手目H3) …。

タマダ

(60手目G2) 結末がどうなるか。

カドタ

(61手目F1) …。

タマダ

(62手目E1) なのに何故続けようとする。

カドタ

(63手目パス) パス

タマダ

(64手目H2) もう、どうすることもできない。

カドタ

(65手目パス) パス。

タマダ

(66手目F2) そしてなすすべもなく、最後の瞬間を、呆然と見送るだけだ。

カドタ

…なあ。

タマダ

なんだね。

カドタ

白と黒。

タマダ

…白と黒？

カドタ

白と黒、どちらが表でどちらが裏なんだろうか。

タマダ

どちらが表かなんて大した問題じゃない。光があれば影がある。勝ちがあれば負けがある。善があつて悪がある。陰と陽、自然と科学。生と死。すべてはコインの表と

裏。白も黒も同じものさ。



カドタ 白と黒が同じ？

タマダ 目の前が真っ白になるのも、目の前が真っ暗になるのも、そう大して変わらない。どちらにしても、もう何も見えない。そう思えば、強い光と深い闇は、どちらも同じものさ。

カドタ …まだ1石残ってる。

タマダ それももう無くなる。

カドタ 石はある。

タマダ 石はあっても、もう手は打てない。

カドタ まだ続ける意思はあるんだ。

タマダ もう、手遅れだ。

カドタ、スマホを取り出し、検索をしようとする。

カドタ

何か、何かないか。グーグル、ヤフー、バイドゥ、ウィキペディア、なんでもいい、誰でもいいから。教えてくれよ、この止まらない、抗いようのない流れに立ち向かう答えを。

タマダ パスで、いいかね？

タマダ、最後の一手を打とうとする。

カドタ 待った！

カドタを残してどんでん返しがる。

タマダは姿を消し、マツダが姿を現す。

マツダ 何？

カドタ え？

マツダ 呼んだ？

カドタ あ、いや。

マツダ どうしたの。突然大声出したりして。

カドタ あ、いや、なんでもない。

マツダ まだやってるの？

カドタ (スマホを示して) あ、うん。結構強くなって。全然勝てない。

マツダ まずはコンピューター相手に練習してからの方がいいんじゃない？

カドタ やっぱりそう思う？

マツダ だってさ、わざわざネット対戦とかするくらいだし、腕に覚えのある百戦錬磨のつわものたちって感じしない？

カドタ やっぱりそうなのかな。

マツダ で、どんな感じ？

マツダ、カドタのスマホを覗き込んで

マツダ ほぼ真っ白だ。

カドタ うん。

マツダ たとえるなら、軽くゴマ塩ふったおにぎりって感じ。  
カドタ だよね。

マツダ で、どっちなの？

カドタ 俺、ゴマのほう。

マツダ 全然ダメじゃん。

カドタ 強いんだよ、この「点の王様」って人。ランキングでも常に上位だしさ。

マツダ 変な名前。

カドタ ネット対戦のハンドルネームとかだいたい適当でしょ。そんな言い出したら俺だ  
マツダ っで「カマドウマ1号」だし。

マツダ 完全に名前負けしてるじゃん。

カドタ そうかな。

マツダ 天の王様って、要するに神様のこと？

カドタ ま、俺から見たら、確かに雲の上の人だけども。でも、その天じゃなくて、点数の  
マツダ 点なんだけど。

マツダ 点の王様って何。

カドタ カマドウマ1号にはわかりません。

マツダ どう？ 逆転できそう？

カドタ パーフェクト負け寸前。

マツダ まだまだ修行が足りませんな。

カドタ 面目ない。

マツダ あれ？

カドタ どうした？

マツダ 今、揺れなかった？

カドタ そう？ 気のせいじゃない？

マツダ そうかな？ …あ、そうだ、

カドタ 何、突然。

マツダ あれ、わかったよ。あれ。

カドタ あれって？

マツダ あれは、あれだよ。ほら、なんだっけ。あの、ほら、昼間から男が働かないでゴロ  
カドタ ゴロしてる…

カドタ ヒモ？

マツダ じゃなくて、あれ、なんだっけ。ここまで出かかっているんだけど。昼間っから男が  
カドタ ゴロゴロしてるんだけど、ヒモじゃなくて…

マツダ それ、俺に対する嫌味？

カドタ 違う違う。ほら、王様だよ、王様。貞治じゃない王。んーでてこない。ああ。もう  
マツダ 思い出すのあきらめた！ よし、気分転換に自販機でジュースでも買って飲むか！

カドタ お、全品10円安い。なんて中途半端。ええと、じゃあ110円のを…110のを…  
マツダ 百獣の王…思い出した、ライオンだ。

カドタ ライオン？

マツダ 忘れたの？ ずっと気になってるって言ってたじゃない。

カドタ ライオンが？

マツダ おはようからおやすみまでのライオンちゃん。

カドタ あ、ああ、そのライオンね。

マツダ ライオンちゃんの鼻の色。何色だったっけって。

カドタ あ、ああ、思い出した。そのことね。  
マツダ あと、肉球の色も。  
カドタ 黒だよね。さっき調べたんだよ。  
マツダ 何が？  
カドタ いや、だから、鼻の色。肉球も。  
マツダ 鼻は緑だよ。ほら。

本物のライオンちゃん、映写される。

カドタ あれ：こんなんだっけ。  
マツダ で、肉球は黄色ね。  
カドタ 黒じゃなくって？  
マツダ 黄色。

本物のライオンちゃんの肉球が拡大して映写される。

カドタ でもなんでそもそもライオンが黄色と緑なんだろう。  
マツダ さあ？  
カドタ 気になる。  
マツダ 調べる？  
カドタ 黄色と緑、黄色と緑、黄色と緑と言えよ：わかった、ライオンちゃんって実はブラジル人って設定なんじゃないの。言われてみれば、なんか鬣とかラモスっぽいし。

マツダ、ヤフって：

マツダ わかったよ。キャラクターのデザイナーがイタリア人だからだって。ウィキペディアに書いてあった。  
カドタ ブラジル人じゃないの？  
マツダ 違う違う。  
カドタ イタリア人だから黄色と緑って、理由になってないだろ。  
マツダ それもそうか。  
カドタ だいたいイタリアなら、緑・白・赤じゃないの？ 本場にイタリア人？ ブラジル人じゃないの？  
マツダ 違う違う。  
カドタ イタリア人だから黄色と緑って、理由になってないだろ。  
マツダ それもそうか。  
カドタ だいたいイタリアなら、緑・白・赤じゃないの？ 本場にイタリア人？ ブラジル人じゃないの？  
マツダ 違う違う。  
カドタ イタリア人だから黄色と緑って、理由になってないだろ。  
マツダ それもそうか。  
カドタ だいたいイタリアなら、緑・白・赤じゃないの？ 本場にイタリア人？ ブラジル人じゃないの？  
マツダ 違う違う。

カドタ え…？  
マツダ それもそうか。  
カドタ 千日手だろ。  
マツダ 違う違う。  
カドタ 戻れないのか。  
マツダ それもそうか。  
カドタ やり直すことすらできないのか。  
マツダ 違う違う。  
カドタ ……待った

音楽。

マツダ それもそうか。  
カドタ 待った！  
マツダ 違う違う。  
カドタ 待った！  
マツダ それもそうか。  
カドタ 待った！

マツダ、機械的に「違う違う」と「それもそうか」を繰り返す。  
どんでん返しが回り、マツダと入れ替わりにタマダが姿を現す。

カドタ 待った！  
タマダ 待ったなし！  
カドタ 待った！！  
タマダ 待ったなし！！  
カドタ 待った！！！！  
タマダ 待ったなし！！！！

たどえ千日繰り返しても、避けようのない未来は、必ずいつかやってくる。どんなに大切に積み上げたものも、所詮は砂上の楼閣だったと思ひ知る。どんなに大切に育てたものも、一瞬のうちに水泡に帰す。

歴史は繰り返す。まるでそれが必然であるかのように。間違えたのは、ずっとずっと昔。もう、戻れないほどの昔。だから、何手戻っても、何度繰り返しても、行きつく先は…いつも同じだ。気まぐれな神の手はいつもなんの前触れもなく下される。それが今、この瞬間でないと、いったい誰が言い切れるだろう。だから、目を閉じ、ただ祈れ。再び開いた目に、いつもと変わらぬ世界が映ることを。

(カドタ の67手目を飛ばし、68手目G1)

盤上が真っ白に染まる。

「14…46」

強烈な揺れと轟音。

どんでん返しが左右に大きく揺れ、オセロの石が全て剥がれ落ちる。

暗転。

(シーン3終了)

闇の中、パチリと駒を打つ音。

あたり一面に散らばったオセロの石と将棋の駒、

その瓦礫の山の中に、カドタ・タマダの姿。

カドタとタマダは一つ一つ石を拾い集め、オセロ盤に戻していく。

オセロ盤、またはじまりの形に戻る。

タマダ (コイントスの準備をして) 表かね? 裏かね?

カドタ また、やり直しか。

タマダ いかにも。

カドタ じゃあ、表で。

タマダ (コイントス) 残念、裏でした。

カドタ それ、表だろ。

タマダ (見せて) 裏。

タマダ 100円玉の「100 平成××年」と書いてあるほうを見せる。  
100円、映写される。

カドタ いや、それ表だろ。

タマダ わからん奴だな。表っていうのは、ええと、つまりなんだ、表のことだぞ。これは

裏。表じゃない。

カドタ 何言ってるんだかわかんねえよ。

タマダ 裏っていうのは、そうだな。トーストで言えば、バターを塗ってない方。

カドタ 両方塗ったらどうなんだよ。

タマダ そんな贅沢は許さん。

カドタ 俺は塗るんだよ。

タマダ その場合は自分から見えない方が裏。

カドタ 舌に直接当たらない方が裏なんじゃないの。

タマダ 視覚優先。

カドタ 味覚優先…とか、そんなのはどうでもいいんだよ。裏と表の定義を聞いてるんじゃないよ。

なくてさ。言いたいのは、なんで、これ(100円)が裏なんだってことなんだよ。

タマダ では(1万円札)これはどっちが表だね?

カドタ (諭吉を指して) こっち。

タマダ (5千円札)ではこれは?

カドタ (一葉を指して) こっち。

タマダ (千円札)これ?

カドタ (英世を指して) こっち。当たり前だろ。

タマダ 共通点は?

カドタ 顔。

タマダ 他には?

カドタ え、他にもなんかあんの?

タマダ 正解は、金額が漢字で書いてある。でしたー。

カドタ !

タマダ 紙幣に人物が描いてある方が表のように、硬貨は植物が描いてある方が表。百円玉には八重桜。つまりこっちは裏。

カドタ 待った。

タマダ なんだね。

カドタ 二千円札は。

タマダ 二千円札？

カドタ (二千円札を取り出して) 表は？

タマダ (守札門をさして) …こっち。

カドタ 顔は？

タマダ そういえば反対側に下膨れの紫式部がいたねえ。

カドタ 人物があるほうが表なんじゃないの？

タマダ ええい、小淵を呼べい。すべての罪は小淵にある。だいたい他のが全部人なのに一つだけ物っておかしいだろ。小淵だ、イタコと小淵、ついでに優子も呼んで来い！

カドタ 誤魔化すなよ！

タマダ だってウイキペディアに書いてあったんだもん。

カドタ またウイキペディアかよ。このクソじじい！今度こそ白黒ハッキリつけてやんぞ。

音楽。

瓦礫の中から、静かにマツダが姿をあらわす。

マツダ 白の反対は黒。表の反対は裏。反対の反対は賛成。生きているの反対は死んでいる。始めの反対は終わり。

タマダ 裏か表か

カドタ 善か悪か

タマダ 陰か陽か

カドタ 是か非か

タマダ 生か死か

カドタ 上か下か

タマダ 右か左か

カドタ 0か1か

タマダ 出か欠か

カドタ 資本か社会か

タマダ 自然か人工か

カドタ 白か黒か

マツダ なんだか答えはどちらかしかないような気がしていた。どちらかを選ばなきゃいけないんだと思っていた。自然の反対は科学。自由の反対は束縛。出社の反対は欠勤。…だけど、まあ、今日は遅刻でも、いいか。

マツダ。ゆるい感じで出勤の準備に化けはじめ。

カドタ 結局さ。どっちが表でどっちが裏なんだよ。

タマダ そうさな、表だと信じるほうが表さ。…で、お前さんは何を信じるね。

音楽。

タマダ、拾い集めた石で盤面を白く染めようとする。  
カドタ、対抗して黒を並べていく。  
白と黒の間で揺れ、拮抗する盤上。  
マツダ、その盤面に「歩」を打つ。  
めまぐるしく変わる盤の上に、一枚だけ動じない「歩」  
マツダ、軽やかに駆け出していく。

(幕)